

り部のつどいをするなど、様々なことにチャレンジしました。

「一年一事業」、「今やれる青春」、「社会への揺さぶり」の3つのテーマを掲げ、この40年間地道に活動を展開してきました。紙面の都合でその内容を紹介することはできませんが、青春に悔いなしの心境で今やれる青春を求めて細々と活動を続けています。愉快的仲間恵まれました。

- ・空からふるさつを見る運動
- ・無人島に挑む少年のつどい
- ・丸木舟建造と瀬戸内海航海
- ・君は大野ヶ原地球人になれるか
- ・ジャガイモ作り&みかん交流
- ・埼玉県北本との交流
- ・牛の峰に挑む少年のつどい
- ・佐田岬半島に挑む少年のつどい
- ・ブーメランテーブル製作夢会議
- ・時計一回りのフロンティア塾（春＝青春塾、夏＝朱夏塾、秋＝白秋塾、冬＝玄冬塾）  
（双海町東越えの廃屋にて1年4回、10年で40回の塾開催、永六輔他講師）
- ・世界遺産を巡る旅
- ・グループ結成20年の活動記録「今やれる青春」出版
- ・千本桜の森づくり事業

## 9 人間牧場での地域づくり活動

50歳の時、60歳で退職するであろう10年後のことを考えました。食べ物に旬があるように、人間にも地域づくりにも旬というものがあると思って、いくらあれをやりたいこれをやりたいと思っても、拒むことがあり過ぎ、旬の機が熟さなければ中々実現ができないものです。

私はこれまでの自分の人生を、20代は冒険の時代、30代は量の時代、40代は質の時代、50代は仕上げの時代、60代はこだわりの時代と定め、それぞれの時代にしかできない旬を探して生きてきました。仕上げの時代と定めた50代の10年は、こだわりの時代のプロローグでもあるのです。

そこで人間牧場構想を思いつきました。詳しくは紙面の都合で詳しく語れませんが、東京市ヶ谷に市町村役場という交流居酒屋を開きながら、地域づくり情報誌「かがり火」という雑誌を編集発行していた鈴木繁夫さんと東京で知り合いました。その発想と行動力に刺激を受け何度も国内の各地へ一緒に講演に出かけるなど親密な交遊をしていましたが、病の床に臥すようになり、見舞いに行った病院で人間牧場構想を聞き、余命いくばくもないので是非自分の遺志を継いでほしいと涙を流し懇願されました。病床に伏しているゆえ断ることもできず遺志を継ぐ約束をしましたが、間もなく彼は冥途へ旅立ちました。

そこで考えた私の人間牧場構想は、60歳で定年退職するまでの10年間で1000万円の資金を蓄える、というできそうでできない計画でした。私は金融広報アドバイザーを40年以上の長きにわたってやっていて、生活設計については指導ができるものの自称貧乏人なので、無理かもしれないと思いつつ綿密に計画を立てて実践したお陰で、退職するまでの10年間で本当に1000万円を貯めることができたのですから驚きです。

実際は特別職の教育長に就任したため58歳で退職しましたが、平成の合併で町の名前が地図上から消えたと同時に退職した明るる日の4月1日から地下足袋と麦わら帽子の出で立ちで、母親が存命中耕作していたものの耕作放棄地となっていた予定地に入り、チェーンソーや草刈り機を友として



人間牧場